

平成27年度 法学研究科入学試験問題 (後期博士課程)

民事・公法学専攻 (フランス語)

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

次の仏文を日本語に訳しなさい。

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

民事・公法学専攻（英語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

1. 以下の英文を日本語で10行程度に要約しなさい。
2. 下線部の英文を和訳しなさい。

出典：Diamond Fruit Growers, Inc. v. Goe Co. 400 P.2d.909 1966

答案用紙別紙

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

民事・公法学専攻（ドイツ語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

下記の文章は、*Paul Tiedemann, Menschenwürde als Rechtsbegriff (2007)* の一節である。
この文章が何について論述されたものであるかを全体的に把握・理解した上で、和訳しな
さい。

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（英語）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問1 以下の英文を日本語に訳しなさい。

(出典 ; Stephen J. Wayne, *Is This Any Way to Run a Democratic Election*. Sage, Fifth Edition, 2014, pp.129-130)

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

政治学専攻（英語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

問2 以下の文章を、冒頭から順次日本語に訳しなさい。

出典： Francis Fukuyama, *Political Order and Political Decay*, Profile Books, 2014,
pp.23-24.

答案用紙別紙

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（中国語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下のⅠ、Ⅱを日本語に直しなさい。

『北京大学生週刊』第2号、1920年1月11日

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（ロシア語）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

以下の文章を和訳しなさい。

Послание Президента Федеральному Собранию, 2014
(<http://news.kremlin.ru/news/47173>)

答案用紙別紙

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（日本語）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【問題】

以下の文章は、長尾龍一『日本憲法思想史』（講談社、1996年）からの引用である。これをよく読んだ上で、次の（1）（2）の二問ともに解答しなさい。

（一）文章の趣旨を10～15行以内にまとめなさい。

（二）著者の「義」と「利」をめぐる議論について、10～15行以内であなたの意見を述べなさい。

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（史料読解）

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

問題

以下の史料は、明治初年に政府首脳間で取り交わされた書簡の一部を抜粋したものである。時代背景を踏まえながら、差出人の「位階」に対する考えがはっきりとわかるようにその要旨を述べなさい。

平成27年度 法学研究科入学試験問題（後期博士課程）

共通（統計学）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

ある工場の従業員には、自動車通勤をするかバス通勤をするかの二つの選択肢がある。従業員がどちらの通勤方法を選択するかは、二つの通勤方法での通勤時間の差によるらしい。この関係を回帰分析によって調べたい。別紙の表1には、この分析に用いた変数の要約統計量が示されている。また、被説明変数を auto（自動車通勤であれば1、そうでなければ0となる変数）、説明変数を dtime（バス通勤時間と自動車通勤時間の差）とする線形回帰分析の推計結果が別紙の表2に、プロビット・モデルでの推計結果が別紙の表3に示されている。

以下の問題に答えよ。

- (1) 表2の線形回帰モデルの結果によれば、dtimeの1単位（1分）の増加が自動車通勤を選択する確率にどの程度影響を与えるか。
- (2) 決定係数、自由度修正済み決定係数とは何か説明せよ。
- (3) 表2の推計結果は最小二乗法によるものである。最小二乗法による回帰係数の求め方を説明せよ。
- (4) 被説明変数が1または0の2通りの値しかとらない場合、表2のような通常の最小二乗法による線形回帰分析では、誤差項の分散不均一性の問題が発生するとされるが、何故か。
- (5) 誤差項の分散不均一性が存在すると、回帰分析の推計結果にどのような問題が生じるか。
- (6) 表3はプロビット・モデルによる分析結果であるが、プロビット・モデルとは何か。説明せよ。
- (7) 表3の推計結果をもとに、dtimeが1単位変化した場合に、自動車通勤を選択する確率が何単位増加するかを求めたい。そのためにはどのような計算をすれば良いか。その方法を説明せよ（ちなみに、表3の結果は、dtimeが平均値から1単位（1分）増加すると、自動車での通勤確率は1.2%上昇するというものである）。

平成27年度 法学研究科入学試験問題 (後期博士課程)

共通 (統計学)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

別紙

表1 要約統計量

Variable	Obs	Mean	Std. Dev.	Min	Max
autotime	21	49.34762	32.43491	.2	99.1
bustime	21	48.12381	34.63082	1.6	91.5
dtime	21	-1.223809	56.91037	-90.7	91
auto	21	.4761905	.5117663	0	1

変数の説明 autotime:自動車での通勤時間 (分), bustime:バスでの通勤時間 (分),
dtime = bustime - autotime, auto: 自動車通勤であれば1そうでなければ0

表2 線形回帰

Source	SS	df	MS	Number of obs =	21
Model	3.20218146	1	3.20218146	F(1, 19) =	29.88
Residual	2.03591378	19	.107153357	Prob > F =	0.0000
Total	5.23809524	20	.261904762	R-squared =	0.6113
				Adj R-squared =	0.5909
				Root MSE =	.32734

auto	Coef.	Std. Err.	t	P> t	[95% Conf. Interval]	
dtime	.007031	.0012862	5.47	0.000	.004339	.009723
_cons	.4847951	.0714494	6.79	0.000	.3352497	.6343404

* _cons : 定数項

表3 プロビット・モデル

Probit regression	Number of obs =	21
Log likelihood = -6.1651585	LR chi2(1) =	16.73
	Prob > chi2 =	0.0000
	Pseudo R2 =	0.5758

auto	Coef.	Std. Err.	z	P> z	[95% Conf. Interval]	
dtime	.029999	.0102867	2.92	0.004	.0098374	.0501606
_cons	-.0644338	.3992438	-0.16	0.872	-.8469372	.7180696